教育研究

継続統合看護学実習における
ジョブシャドウイング導入による看護マネジメントに関する学生の学び

岩坂　信子・尾形　裕子

（2017年1月5日受稿）

抄録：　本学の継続統合看護学実習は４年次の学生を対象に２単位90時間で実施している．その内容は，「複数患者を受け持ち，臨床実践の中で基礎的知識・技術を統合的に体験する」，「看護のマネジメントを学ぶ」を主としている．実習内容に病棟看護管理者，リーダー看護師，患者受け持ち看護師に対してそれぞれ１日間のジョブシャドウイングを導入したことにより，学生がどのような看護マネジメントの学びを得たのかシャドウイングの効果を検討することを目的とした．シャドウイングの効果の検討方法は，継続統合看護学実習最終日の報告会でグループ作成した発表資料を内容分析によるカテゴリー化を行った．結果，［看護管理者の役割］［職員，患者家族と信頼関係構築のためのコミュニケーションの活用］［多職種連携の実際と看護師としての役割発揮］［業務に運用するための優先とする要因］［メンバーシップ力とその発揮の方法］［チームにおけるリーダーの役割と理解］の６つのカテゴリーが得られた．学生はジョブシャドウイングをとおして看護管理者，リーダー看護師の業務の実際から未知なるそれぞれの役割・機能の理解，受け持ち看護師の行動からはメンバーシップ力とその発揮を学び取っていた．
キーワード：継続統合看護学実習　ジョブシャドウイング　看護マネジメント

Ⅰ．はじめに

「看護基礎教育の充実に関する検討会報告書」（厚生労働省，2007）では，看護実践能力を強化するために修得すべき技術項目と看護基礎教育修了時の到達度が示された．同報告書をもとに厚生労働省が保健師助産師看護師学校養成所指定規則等の一部改正を行い「統合分野」が設置された[1]．2009年度のカリキュラム改正を見ると，統合分野には，「在宅看護論」と「看護の統合と実践」が教育内容として新たに位置付けられた．この分野が設置された背景は，医療の高度化はもちろんであるが，新人看護師の実践能力の低下と実践現場で求める内容との乖離，新卒看護師の離職などの要因が指摘されている[2]．このカリキュラム改正の留意点「看護の統合と実践　4単位」においては，チーム医療及び多職種との協働の中で，看護師としてのメンバーシップ及びリーダーシップを理解する内容とすることや看護をマネジメントできる基礎的能力を養う内容とすることが明記されている．さらに，臨地実習では「看護の統合と実践　2単位」において，実務に即した実習，複数の患者を受け持つ実習，夜勤実習を行うことが望ましい，等々が明記されている．これらは，卒業後スムーズに実践現場に適応できるような環境で，知識と技術を統合できるような内容で，チーム医療の必要性の理解とともに，複数患者を受け持ちチーム員として学生自身がタイムマネジメントをできる基礎的な能力を養うように位置付けられている[3]．

A大学看護学科では，看護学科設置4年目を向かえた2011年より臨地実習「看護の統合と実践」において学生の看護実践能力の向上に取り組んできた．本実習5年目の2015年度には，より実践に近い学習内容となるよう見直しを行った．その内

北海道文教大学人間科学部看護学科

容は,「複数患者を受け持ち，臨床実践の中で基礎的知識・技術を統合的に体験する」,「看護のマネジメントを学ぶ」を主としており，病棟看護管理者，リーダー看護師，患者受け持ち看護師に対してそれぞれ1日間密着し，どのような業務を行っているのか，その仕事ぶりを体感するジョブシャドウイング（以下，シャドウイング）を導入した．実習内容見直しから2年目，本学科の継続統合看護学実習における学生の学びを評価する必要がある．

本研究の目的は，継続統合看護学実習にシャドウイングを導入したことで学生がどのような看護マネジメントの学びを得たのか，シャドウイングの効果を検討することである．

Ⅱ．継続統合看護学実習の概要

1．継続統合看護学実習の目的・目標

A大学看護学科は4年次前期まで領域別看護学実習を行い，受け持ち患者1名に対して看護問題を抽出し，看護ケアを計画・実践・評価する方法で行ってきた．継続統合看護学実習（以下，統合実習）は領域別看護学実習を統合する実習として，看護チームの組織・機能・管理の実際から看護の役割と機能を考えること，保健医療福祉チームの一員として多職種協働の重要性の理解を深めることと，メンバーシップとリーダーシップの有り様について学ぶことと，対象や場に応じた看護ケアの実践からチーム員としての課題に気づき自身が解決策を考えられることを実習目的・目標としている．

実習目的

看護チームの組織・機能・管理の実際を学び，保健医療福祉チームの一員として多職種との協働について理解するとともに，看護実践に必要な知識・技術を統合し，対象や場に応じた実践力を養う．また，看護師としてのメンバーシップならびにリーダーシップの重要性について学習する．

目標は以下の4つである．

1）看護チームの組織・機能・管理の実際を学び，看護の役割と機能について理解する．
2）多職種との連携・協働の実際について学び，統合的・継続的な看護実践について理解する．
3）看護実践に必要な知識･技術を統合し，対象（複数）や場に応じた看護を考えることができる．
4）専門職業人として，より質の高い看護実践をめざし自己研鑽を継続する必要性を理解する．

2．実習の進め方（表1）

表1のとおり，学生には実習開始3か月前に統合実習のオリエンテーションを実施し，自己の課題を整理するとともに，事前に目標を掲げ実習に

表1　継続統合実習の進め方（実習内容・方法）

	実習内容	実習方法
実習前 （3か月前）	実習要項の説明 実習課題の説明	対象学生全員に実習要項の説明：目的・目標，実習方法について 事前学習課題の説明：事前学習，実習課題について
実習１週目	１日目：事前課題の確認，施設ガイダンス 病院組織における看護管理 病棟管理者の役割と日常業務 看護チームリーダーの日常業務	施設概要，実習中の注意事項，マナー 看護部責任者のオリエンテーション 病棟師長のオリエンテーション後ジョブシャドウインを開始し業務の実際を見学する 看護チームリーダーへのジョブシャドウイングを行い業務の調整，医師・他部門との連携やスタッフ対応など見学する
実習２週目	対象者２名の看護を実践する 多職種との連携協働の理解 チーム医療について考える （多職種カンファレンスの参加）	２週目の初日は指導看護師と行動をともにしたジョブシャドウイングを行う．翌日以降は病棟の計画を参考に自己の行動計画を立案し臨床指導者もしくは受け持ち看護師と調整する．調整後，受け持ち看護師のもとで看護を実施する 実習期間中１回は多職種カンファレンスに参加する．カンファレンスの実際から看護師の役割について考察する

臨むようにしている．実習開始の初日は学内演習とし主に学生の課題についてA大学専任教員（以下，教員），A大学実習補助教員（以下，インストラクター）とのディスカッション，施設での自己の行動目標と行動計画の作成を行う．翌日から施設実習を行う．1週目は主に看護管理者やリーダー看護師のシャドウイングを主とし，この週の最終日は学内演習とした．ここでは，1週目の学びや振り返りを行い次週の行動計画に活用できるよう実習で気付いた不足の知識・技術の学習を深めることとしている．2週目は複数の対象者(2名)に看護を実践する．2週目の初日は患者受け持ち看護師に対しシャドウイングし看護の実践を見学する．2日目以降は，看護師が立案した看護計画に基づき，自己の行動計画立案し受け持ち看護師に確認してもらい，修正や調整を行ったうえで看護の実践をする．受け持ち患者の看護チームのケアカンファレンスへの参加，多職種カンファレンスへの参加も行う．

3. カンファレンス

振り返りを主にした日々行うカンファレンスと，テーマを設定しディスカッションするテーマカンファレンス（2週目の後半に1回開催）がある．日々のカンファレンス参加者は学生，教員，インストラクター，病院側臨床指導者やその日学生とかかわった臨床側の看護師で構成される．テーマカンファレンスは学生，教員・臨床指導者やその日学生とかかわった臨床側の看護師に加えて病棟師長，リーダー看護師が可能な限り参加しての開催とした．

4. 実習施設と実習期間ならびに学生配置数

実習施設は国公立総合病院と一般総合病院の8施設，延べ25病棟で4クール（1クール：2週間）に分けて平成28年7月18日～9月2日で実施した．実習病棟は小児と母性の病棟を除いた救急部門，循環器，呼吸器，整形外科病棟など多様であった．各クールの実習期間は2週間（2単位:90時間）である．

1グループの人数は，学生2名（3病棟），3名（10病棟）4名（12病棟）で編成し合計25グループとした．いずれの病棟にもインストラクターを配置し教員はラウンドによるサポート体制をとった．

Ⅲ．研究方法

1. 研究対象

対象者は，平成28年度にA大学看護学科の継続統合実習を履修した4年次84名である．発表資料内に「看護のマネジメントに関連する内容」が記述されているものを抽出し，研究対象とした．

2. 調査方法

統合実習最終日に2週間のまとめをグループ毎に発表用に資料化したもの24件を用いた．資料作成は，2週間の実習を振り返って学んだこと，今後に活用したいと考えたこと，現段階での自己課題についてまとめることを口頭とガイダンス資料にてあらかじめ説明した．

3. 用語の定義

本研究で用いる看護マネジメントとは，最良の看護を患者や家族に提供するために，看護管理者などの役職の有無にかかわらずチームや組織を動かし看護の成果をだすこととした．

4. 調査期間

平成28年7月～9月

5. 分析方法

統合実習の評価が終了した後に，発表資料を提出するボックスを用意した．グループの承諾が得られた発表資料のうち，マネジメントの用語の定義に従い関連する記述部分を意味内容の類似性によりコード化し，サブカテゴリー化，カテゴリー化した．カテゴリー化にあたっては共同研究者間で協議した．

6. 倫理的配慮

発表資料の使用については統合実習の成績評価終了後に，研究の趣旨を文章と口頭で説明した．なお，発表資料については，学びに該当する文脈をカテゴリー化するため個人ならびにグループが特定されないこと，成績評価とは無関係であること，発表資料の使用を断っても不利益を被ることはないこと，研究協力に拒否があっても不利益は受けないこと，発表資料の提出をもって同意が得られたものと解釈することを説明した．

なお，本研究は対象学生が在籍するA大学倫理委員会の承認を得て実施した（承認番号28001）．

Ⅳ．結果（プレゼンテーション資料分析結果）

研究に同意が得られたのは学生84名（25グループ）のうち，学生81名（24グループ）であった．看護マネジメントに関する記述内容を抽出した結果，247のコードを抽出し，17のサブカテゴリー，6つのカテゴリーに区分できた．6つのカテゴリーは，［メンバーシップ力とその発揮の方法］［業務に運用するための優先とする要因］［看護管理者の役割］［看護チームにおけるリーダーの役割と理解］［多職種連携の実際と看護師としての役割発揮］［職員，患者家族と信頼関係構築のためのコミュニケーションの活用］である（表2）．

なお，カテゴリーは［　］，サブカテゴリーは

表2　看護目マネジメントに関する学生の学び　　コード総数=247

カテゴリー	サブカテゴリー	コード	数
メンバーシップ力とその発揮の方法	メンバーとして実践すべき姿勢	・自身で実践可能なこと，不可能なことの判断や困ったことに対する報告・連絡・相談をリーダー，メンバーに徹底(15) ・自身の困難状況を伝えアドバイスやフォーローの依頼(12) ・多重課題や業務の重複など困難状況発生に自身の力量を把握し応援依頼(11) ・常時，緊急対応可能となるスケジュールの重要性とその立案(5) ・チームで看護を行っていることを意識したメンバーシップの発揮と目標の共有(5) ・予測した行動と臨機応変な行動の修正と対応(3) ・先輩看護師の行動からの学び(2)	53
	チームの一員としての行動と責任	・自身の役割把握と責任のある業務の遂行(4) ・疾患・治療内容の理解，患者の情報収集とアセスメントのもと必要なケアの提供(4) ・患者の想いや訴えなど共通認識に向けた情報共有(4) ・チームの一員としての協働姿勢(3) ・役割を把握し責任をもって任された業務を行う(1)	16
	患者に対する姿勢と自己研鑽	・安全な看護，患者の想いに沿った看護，個別性のある看護の提供(8) ・日々の学習と自己研鑽(5) ・尊重した姿勢で患者の状況や理解度に合わせた対応(1) ・患者が持つ力を最大限に生かせるように，その人のペースに合わせてかかわる姿勢の重要性(1)	15
業務に運用するための優先とする要因	時間管理	・状態や予測を常にアセスメントし優先度を検討し行動することが時間管理となっていく(8) ・優先度は自身の力量，病室を回る順序など適切な判断が必要でこのことが時間管理となる (7) ・時間指定のケア，検査，他部署と連携などは優先事項 (7) ・優先順位は，朝に情報を得る，援助にかかる時間を予測し逆算しながら判断することが時間管理となる (5)	27
	重症度と緊急度	・疾患や術式から起こりうるリスク，重症度と緊急度から優先順位を判断(7) ・患者の言動から優先順位を判断(5)	12
	患者の希望	・患者の希望，意思，気持ち，大切にしていることの尊重 (4)	4

看護管理者の役割	安全な療養環境・職場環境の整備	・病棟の環境調整，看護師の職場環境づくり(8) ・患者・職員に対する医療安全に対する配慮と実践(７) ・患者の心身状況に配慮したベッドコントロールの実際(４) ・看護師の職場環境を整え，長く働けるよう一人一人のワークライフバランスの考慮(2) ・物品や財源の確保(1)	22
	医療安全対策と支援	・職員が，安全に看護が行えるような後方支援 (1) ・医療安全，安全安楽な治療に対する予防策を検討しスタッフと共有 (2) ・危機管理対策(1)	3
	目標達成へのモチベーションの向上と支援	・病院理念と看護部方針からの病棟目標の設定(4) ・個人目標の設定や評価による支援の実際(4) ・看護師のモチベーションを高める工夫 (2) ・最良の看護提供に向けた組織化，統制の実施(1)	11
	スタッフへ教育的支援と人材育成	・職員のスキルアップのための支援(4) ・新人看護師に理解度を確認するなど，職員の能力に応じた支援 (1) ・行動の振り返りと問題意識を持たせるかかわり(1)	6
	スタッフの体調把握と調整	・疲労度の把握と健康管理 (3) ・勤務表作成時に配慮 (2) ・スタッフの心身の健康状態の把握(1)	6
看護チームにおけるリーダーの役割と理解	統一した看護実践のための情報共有と連携	・看護師の代表として意見や情報交換する人(7) ・スタッフと患者の心身状況の情報共有者(6) ・医師ならびに病棟管理者，メンバー間で情報のずれがないように調整する人(4) ・他の職種と連携し的確に相手に情報を伝達する(1) ・チームメンバーと情報共有し，解決策や今後の方向性の検討を行う人(1) ・医師との連携：指示受けとメンバーへの伝達(1) ・医師はじめ他の職種とのつなぎ役を担い，連携をとる人(1)	21
	看護チーム統率者としてのスタッフへのサポート	・チーム内の患者把握や業務が進んでいるか確認しサポートする，まとめ役となる(7) ・業務分担の調整を行う人 (４) ・メンバーからの報告や状況判断のもとスタッフを支える人，協力する人(4) ・スムーズに業務が実践できるよう調整する人(1) ・業務の進行状況の把握(1)	17
	チームによる教育支援	・困っているスタッフへの対応と指導(3) ・新人看護師へのサポート・教育的関わり(2)	5
多職種連携の実際と看護師としての役割発揮	多職種カンファレンスの意義	・退院や転院に向け家族の希望，社会資源などについて多職種と検討，方向性の決定(4) ・グランドルールに基づき，患者をアセスメントし，今後を予測し目標の検討 (7) ・他職種との連携・協働の必要性の学び(1)	12
	多職種カンファレンス時の看護師の役割	・患者の情報を具体的に提供する役割 (2) ・看護師は患者さんの想いを聞き，代弁する役割 (2) ・多職種との連携・調整で情報を共有し，継続的な看護実践につなげる役割 (2) ・他職種の役割機能の把握 (2)	8
職員，患者家族と信頼関係構築のためのコミュニケーションの活用	スタッフ，患者・家族支援のためのコミュニケーション力	・スタッフ間での情報共有，伝達，報告，連絡，相談場面でのコミュニケーション力の大切さ (6) ・患者・家族が安心安全に療養生活を送れるような精神的フォーロー(1) ・患者の思いや不安に寄り添い安全安楽な療養とするための援助方法である(1) ・他職種との円滑なコミュニケーションの重要性(1)	9

〈　〉，コードは「　」で示す．

以下，各カテゴリーの詳細について述べる．

1)［メンバーシップ力とその発揮の方法］

このカテゴリーは，〈メンバーとして実践すべき姿勢〉,〈チームの一員としての行動と責任〉,〈患者に対する姿勢と自己研鑽〉の3つのサブカテゴリーを抽出した．メンバーとして実践すべき姿勢のコードは，「チームで看護を行っていることを意識し，報告･連絡･相談･情報の伝達を行う」,「多重課題や業務の重複など困難状況発生時の応援依頼」などが述べられていた．これは，学生が複数患者を受け持ち自身の困難な状況から，困難な状況となった場合の対応について考えられていた．〈チームの一員としての行動と責任〉のコードは，「疾患や治療内容を理解し，患者の情報収集とアセスメントのもと必要なケアの提供」,「自身の役割を把握し責任をもって任された業務を行う」などの内容であった．学生は，確実なケアの実践と与えられた業務を遂行することがチームの一員としての基本行動であると学んでいた．〈患者に対する姿勢と自己研鑽＞のコードは，「患者が持つ力を最大限に生かせるように，その人のペースに合わせたかかわりの重要性」,「患者を尊重し状況や理解度に合わせたかかわりが大切」などの内容であった．学生はメンバーとしてチーム員としての姿勢の有り様や，患者に対応する場合の人として基本的人権を尊重する気持ちといった倫理的側面においても具体的に学びを深めていた．

2)［業務に運用するための優先とする要因］

このカテゴリーは，〈時間管理〉〈重症度と緊急度〉＜患者の希望＞の3つのサブカテゴリーを抽出できた．時間管理のコードは，「状態や予測を常にアセスメントし優先順位を検討する」,「時間指定のあるケアや検査，他部署と連携するものを優先する」,「重症度や緊急度から優先順位を判断する」であった．学生は看護の実践をする場合，重症度と緊急度，患者の希望や気持ちを大切にすることが優先順位を決定する要因であることを学んでいた．このように学生は業務のための運用方法や優先度の要因を具体的に学んでいた．

3)［看護管理者の役割］

このカテゴリーは，〈安全な療養環境・職場環境の整備〉,〈医療安全対策と支援〉,〈目標達成へのモチベーションの向上と支援〉,〈スタッフへ教育的支援と人材育成〉,〈スタッフの体調把握と調整〉といった5つのサブカテゴリーを抽出できた．サブカテゴリー〈安全な療養環境・職場環境の整備〉に関するコードは，「長く働けるように一人一人のワークライフバランスの考慮」や「「患者と職員に対する安全に対する配慮」などであり，看護職員の労働安全衛生や組織の視点から見た安全管理に通じる内容を考えられていた．〈医療安全対策と支援〉に対する記述は「安全に看護が行える後方支援」「医療安全に対する予防策を検討しスタッフとの共有」などセーフティマネジメントについても学んでいた．〈目標達成へのモチベーションの向上と支援〉に対するコードは,「病院理念と看護部方針から病棟の目標設定」や「個人目標の設定や評価による支援の実際」など動機付けに関連するものであった．〈スタッフへ教育的支援と人材育成〉のコードは「スキルアップのための支援」,「行動の振り返りと問題意識を持たせる関わり」,「新人教育やスタッフのスキルアップへのバックアップ」など，新人はじめ各看護師に対する病棟看護管理者の具体的な教育・支援の実際を学んでいた．〈スタッフの体調把握と調整〉のコードは「スタッフの心身面の健康状態の把握」「体調や疲労度の把握」,「勤務表の作成時の配慮」など心身の健康管理にかかわるものであった．学生は，看護管理者の実際から環境の整備や医療安全対策，職員の教育支援や健康管理などの具体的場面への対応について，看護のトップマネジメントの概念を示す内容の学びをしていた．

4)［看護チームにおけるリーダーの役割と理解］

このカテゴリーは，〈看護チーム統率者としてのスタッフへのサポート〉,〈統一した看護実践の

ための情報共有と連携〉,〈チームによる教育支援〉の3つのサブカテゴリーが抽出できた.〈看護チーム統率者としてのスタッフへのサポート〉のコードは「チーム内のサポートやまとめ役」,「メンバーからの報告・相談から状況判断しスタッフを支える」「業務分担の調整」「業務の進行状況の把握」などであった.など,チームの統率者としての言動から学び取っていた.〈統一した看護実践のための情報共有と連携〉のコードは「他職種と連携をとり,的確に相手に情報を伝達する」,「他職種とのつなぎ役,連携」などである.〈チームによる教育支援〉のコードは,「チームで困っているスタッフの対応･指導」や「新人看護師へのサポート,教育的関わり」などであった.学生はチームリーダーがスタッフを支援する姿勢や業務調整,教育支援の場面から,チーム統率者としてのリーダーの役割を学んでいた.

5)［多職種連携の実際と看護師としての役割発揮］

このカテゴリーは,〈多職種カンファレンスの意義〉,〈多職種カンファレンス時の看護師の役割〉の2つのカテゴリーが抽出できた.〈多職種カンファレンスの意義〉のコードは「グランドルールを守って患者をアセスメントし,今後について予測し,目標の検討」などを述べていた.学生は実際のカンファレンス場面の見学で,異なった背景の職種がチームとして活動するにはグランドルールの必要性と共有した目標について理解していた.〈多職種カンファレンス時の看護師の役割〉のコードでは,「看護師は患者さんの想いを聞き,代弁する役割を持っている」などが述べられていた.学生は,医師,作業療法士など看護職以外の職種で構成したカンファレンスの実際を見学して看護師の言動から参加時の役割とともに多職種連携の必要性と看護師の担う役割について学んでいた.

6)［職員,患者家族と信頼関係構築のためのコミュニケーションの活用］

このカテゴリーは,〈スタッフ,患者・家族支援のためのコミュニケーション力〉のサブカテゴリーを抽出した.コードは,「患者が安全・安楽に入院生活が送れるよう,患者の思いや不安に寄り添イ安全安楽な療養とするために」,「患者,家族とかかわり,安心安全な療養生活できるよう精神的フォロー」など内容であった.学生は実際の対応場面を見て,看護職が発する言葉の効果を学んでいた.学生は,言葉が良薬になることを学び,職員,患者家族と信頼関係構築のためにコミュニケーションが持つ効果の学びをしていた.

Ⅴ.考察

1.学生が学んだ看護マネジメント

1)的確な看護実践のために受け持ち看護師のジョブシャドウイングによる学び

本研究の結果で得られた6つのカテゴリーのうち多くの記述をみとめたのは［メンバーップ力とその発揮の方法］であった.困難な状況におかれた場合の解決策として,報告・連絡・相談の重要性を学び取ったことを意味しており,そのコードは「業務が重複した場合のフォローの依頼」,「できることとできないことの判断とチーム員への協力と連携」,「日々の学習と自己研鑽」などであった.これは,複数患者を受け持ち,学生が受け持ち看護師とジョブシャドウイングをとおして,いずれチームの一員として自身が身を置く環境を想定でき,行動可能な解決策を見出していたと考える.

さらに,［業務運用のための優先とする要因］も記述は多かったが,学生は複数患者を受け持ち看護ケアの実践にあたり受け持ち看護師との調整を行い,自分の看護の実践の優先順位を修正した場面をとおして,新たな優先度とする内容とその実践方法を学んでいた.看護の実践場面で看護技術に予想以上の時間を費やし,次に計画した看護の実践が時間通りに行えなかったことを経験した.学生は,的確な看護技術の習得と時間管理の

重要性，優先順位の決定とそれに影響する要因を学ぶことができたと考える．後藤ら[4] は，学生が複数患者を受け持ってからは，その時々での優先順位の決定と時間配分の難しさを感じながら，次第に時間管理や優先順位の判断の仕方を理解したことを報告していた．本研究においても同様の結果を得たが，本研究では，後藤らの報告以外に，学生はさらに優先度決定として「時間指定のケアや検査, 他部署との連携」「重症度･緊急度の優先」について具体的に学び行動可能な解決策を導き出していた．このジョブシャドウイングをとおして導き出した解決策は実行可能なものであり本研究の知見と捉えた.

2）他者の役割理解と自身の行動への取り組み

児玉ら[5] は統合実習で看護師長のシャドウイングでの看護管理を報告し①日々の看護管理業務に関する内容記述が多かったことと，②チーム全体の看護の質向上や患者の療養環境の整備，③教育・人材育成，など看護管理の視点が得られたことを報告している．本研究においても，＜教育的支援と人材育成＞，＜スタッフの体調把握と調整＞，＜モチベーションの向上と支援＞，＜医療安全対策と支援＞，＜療養・職場環境の整備＞などのサブカテゴリーを得ており，看護マネジメントの実際とその学びから，看護管理者は学生自身の成長を促す人，患者とスタッフに寄り添い安全安楽な環境を育む人と捉え，存在の大きさを認識することができているといえる．一方，［看護チームにおけるリーダーの役割と理解］において学生がとらえたリーダー像は，サブカテゴリーが示すように＜看護チームの統率者，スタッフのサポートする人＞，＜統一した看護実践のための情報共有と連携を図る人＞，＜教育的関わりをする人＞と認識していた．このリーダーの役割理解が得られたことは，［メンバーシップ力とその発揮の方法］に記述しているように「患者に必要なケアを確実に提供する」,「責任をもって任された業務を行う」,「チームワークをとり協働する」,「チームの一員としての情報の共有やサポートできるように意識した行動」, などであった. これは, リーダーと受け持ち看護師行動を直接的に体験した結果と考える．リーダーのシャドウイングを取り入れた背景は，他者理解がチームの一員としての行動に影響すると考えての実習方法であった．看護師としての今後の行動に取り組む姿勢は，学生自身のマネジメントを考えることにつながっていたと認識する.

佐藤ら[6] によると「リーダーのシャドウイングを統合実習の方法として実施した結果，学生の満足度が高かったことと，その理由を（新たな学習内容）と（異なる視点からの看護)」が，学びに対し肯定的な意味づけがされたと報告している[5]．本実習においても，今までに体験したことのない未知なる学習内容（病棟師長やチームリーダーとの同行）であるシャドウイングという学習方法が新たな学びとなり広がりがみられ，今後の看護活動に活用する方法についても考えられていた．学生は看護管理者・リーダーの役割や看護チームの機能について考えられたことからもシャドウイングは実習方法として効果的であったと考える．今後は，学生が考えた看護活動をどのように行動化するか実習方法の検討が必要である．一方，学生の学びの多さから考えると，施設側の実習指導者や看護管理者の負担感が懸念された．臨床側と負担軽減の方法を検討することが課題である.

Ⅵ．今後の課題

本研究で述べたジョブシャドウイングの効果は学生視点からであり，今後は，臨床側の方々の評価や実習目標の評価などを活用し，ジョブシャドウイングの効果について根拠をもって示すことと実習方法の検討が課題である．さらに，看護管理者ならびに臨床指導者の方々の負担の程度とその対処について臨床側と検討し改善する必要がある.

Ⅶ. 結論

本研究において以下のことが明らかとなった

1. 継続統合看護学実習の発表レポートを分析した結果，学生が学んだ看護マネジメントは，6つのカテゴリー［看護管理者の役割］［職員，患者家族と信頼関係構築のためのコミュニケーションの活用］［多職種連携の実際と看護師としての役割発揮］［業務に運用するための優先とする要因］［メンバーシップ力とその発揮の方法］［チームにおけるリーダーの役割と理解］が抽出された．最も記述が多かったのは，［メンバーシップ力とその発揮の方法］であった．

2. 患者受け持ち看護師とのジョブシャドウイングは，優先順位や時間管理の重要性を認識でき，チームの一員としての行動姿勢を認識できた．

3. 学生は，看護管理者，リーダー看護師のシャドウイングをとおして，未知なるそれぞれの役割・機能を学び取っていた．

謝　辞

本研究を行うにあたり，ご協力くださった学生の方々に心から感謝申し上げます．そして，お忙しい中，熱心にご指導していただいた臨床の看護管理者の皆様，看護師の皆様に厚くお礼申し上げます．

文　献

1) 厚生労働省：看護基礎教育の充実に関する検討会報告書：2007.
2) 良村貞子，岩本幹子，青柳道子，渡辺玲奈，矢野理香，森下節子：複数の患者を受け持つ看護管理実習の展開. 看護総合科学研究会誌，10（3）：65-71，2007.
3) 小山眞理子：今，改めて看護基礎教育カリキュラムの統合実習を考える．看護展望，37（2）：5-14，2012.
4) 後藤桂子，松谷美和子：新人看護師の看護実践を段階的に進める「統合実習」．看護展望，32（7）：687-694，2007.
5) 児玉善子，佐藤あゆみ，安藤智恵：統合実習に看護師長シャドウイングでの看護管理に関する学生の学び．日本看護学教育学会誌，26：234，2016.
6) 佐藤加奈，深堀浩樹，佐々木吉子，柏倉淑子，小牟田智子，井上智子：看護の統合と実践実習の在り方の研究　東京医科歯科大学の学生による実習評価から．看護教育：208-213，2011.
7) 田中初枝，眞鍋知子，成田美智恵：統合実習における実習目標到達度の評価．日本看護学教育学会誌，26：230，2016.
8) 小林由香，堀由起子：統合実習に活用できる演習の在り方～統合実習後の学生へのアンケート調査から～．第46回日本看護学会－看護教育－学術集会抄録：265，2015.
9) 小野晴子，逸見英枝，金山弘代，柘野浩子，塩見和子，蟻本暁子，掛屋順子：複数の患者受け持ち導入による統合実習Aの到達度－臨床実践能力の習得に向けて－．新見公立大学紀要，32：7-14，2011.
10) 村田由香：総合看護実習における学生の視点から見たチームケアの強み，日本赤十字　広島看護大学紀要，10：51-58，2010.
11) 小林美子：統合実習に活用できる演習の在り方～統合実習後の学生へのアンケート調査～．第46回日本看護学会－看護教育－学術集会抄録集：265，2015.
12) 佐居由美，松屋美和子，平林優子，西野理英，寺田麻子，高屋尚子，飯田正子，桃井雅子，佐藤エキ子，井部俊子：看護基礎教育と看護実践とのギャップを縮める総合実習の効果～看護学生から臨床看護師へ～．聖路加看護学会誌，13（1）March：24-33，2009.
13) 川上裕子，椿祥子，濱田慎，大野朋加，斎藤しのぶ，山本利江：新カリキュラムに基づく看護学教育に関する報告－平成24年度統合実習および看護学セミナー統合の基礎看護学教育分野における授業展開－．千葉大学大学

院看護学研究科紀要，35：9-14，2013.
14）中山登美子：「統合実習」で臨床－学校がどう連携するか．看護展望，32（7）：695-699，2007.
15）林慶子，中山登美子，中島明美，小林美智子，安井静子：統合分野・看護の統合と実践．看護教育，49（10）：959-965，2008.

Learning about Nursing Management through Job Shadowing in Continuing Integrated Nursing Practicum

IWASAKA Nobuko and OGATA Yuko

Abstract: Continuing Integrated Nursing Practicum is a two-credit course designed to require 90 hours of work by senior students at Hokkaido Bunkyo University. This course focuses on students' experiences in the following: learning basic nursing knowledge and skills in an integrated manner through clinical practice in which they take care of multiple patients; and learning nursing management. During the clinical practice, each student was required to undertake job shadowing by spending one day each with a ward nurse administrator, a nurse leader, and a nurse responsible for nursing care of patients. This study aims at verifying the effectiveness of job shadowing by clarifying what students learned about nursing management. Students taking the Continuing Integrated Nursing Practicum were divided into groups and each group made a presentation in a debrief session held on the final day of the clinical practice. The content of the presentations was analyzed for evaluating the effectiveness of job shadowing. The important points that students learned about nursing management are summarized in the following six categories: roles of nurse administrators; benefits of communication in building relationships of trust with hospital staff and patients' family members; collaboration with multiple professionals, and ways for fulfilling nurses' roles; matters of high priority in clinical nursing practice; the meaning of being a member of a nursing team, and ways for serving as a useful member; and the roles of a leader on a nursing team. Through job shadowing, students understood roles and functions of nurse administrators and nurse leaders of which the students had had little idea before. These students also learned about the meaning of being a member of a nursing team and ways of serving as a useful member by observing behaviors of nurses responsible for nursing care of patients.

Keywords: continuing integrated nursing practicum, job shadowing, nursing management